

新宿区景観まちづくり計画等 改定ワーキンググループ(案)

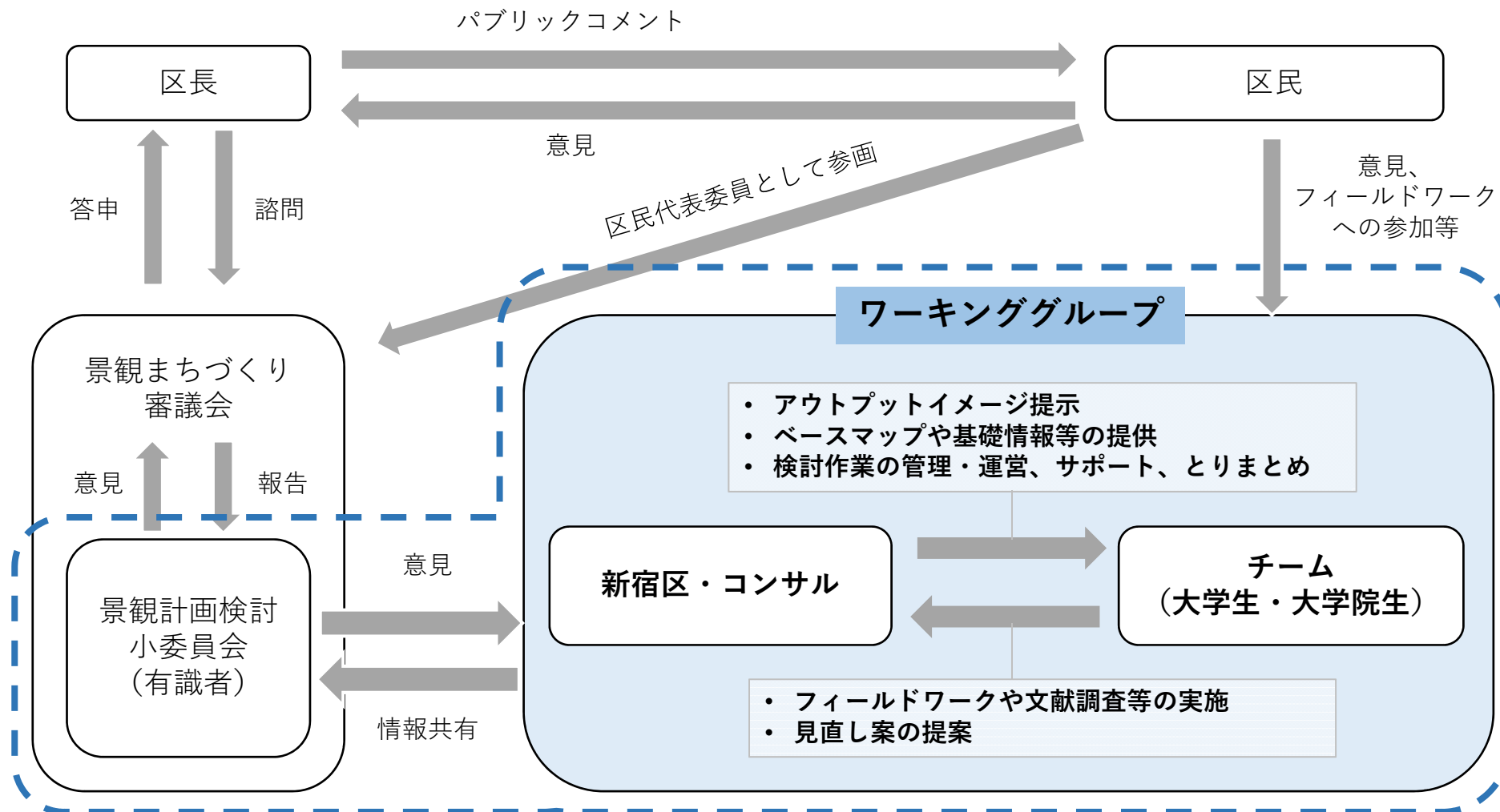
景観まちづくりインカレ・ワークショップ

1. 体制・役割分担（案）	．．． 2
2. チーム編成について	．．． 3
3. ワーキンググループの進め方（案）と確認事項	．．． 4
① 参加大学の募集について	．．． 5
② WG検討対象エリア（案）	．．． 6
③ 各チームによるGL検討の流れ（案）	．．． 8
全体の流れと留意点	
④ 新しい視点等のキーワード（案）	．．． 9
⑤ GLの更新イメージ	．．． 10

1. 体制・役割分担（案）

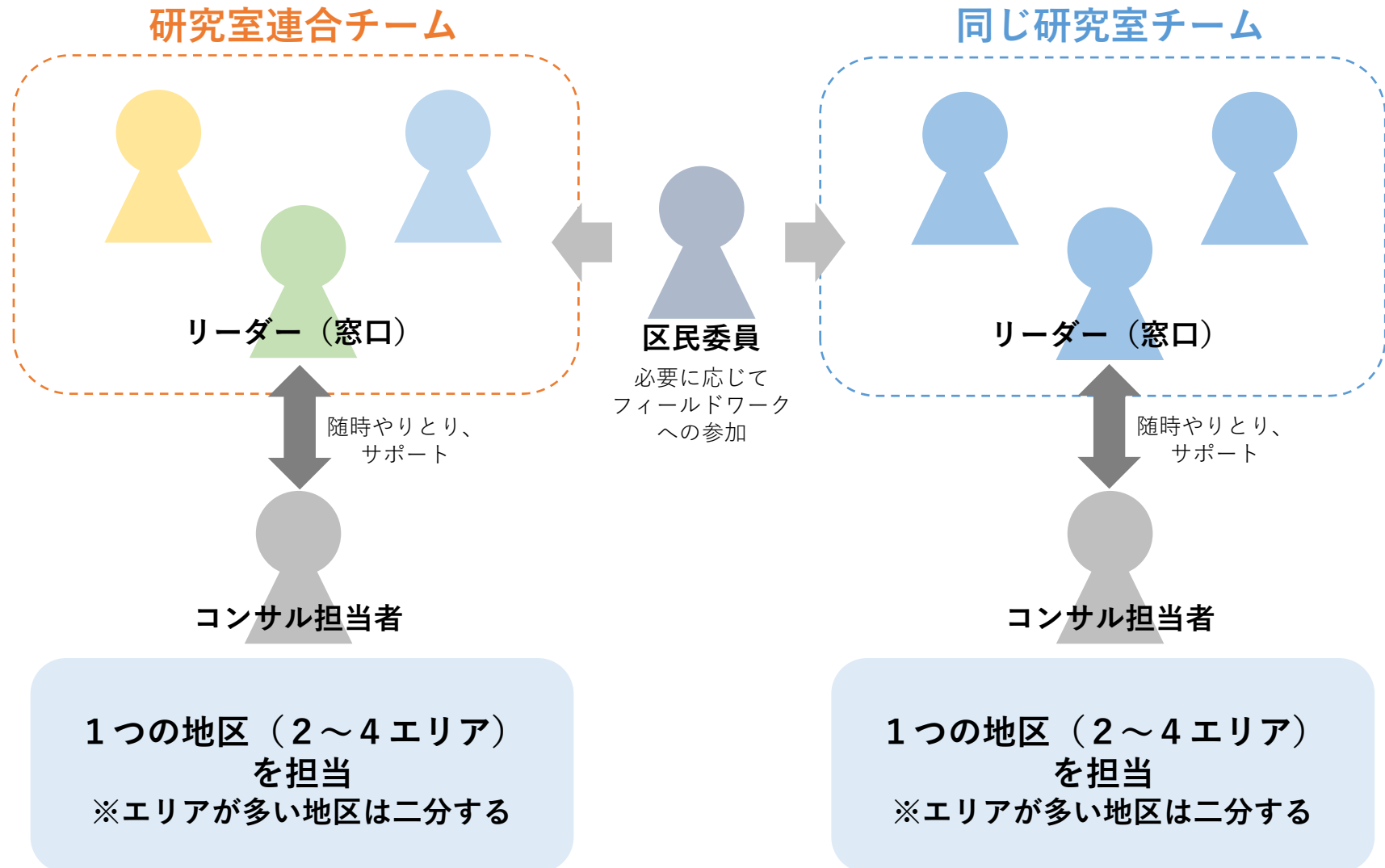
2

ワーキンググループの役割：エリア別景観形成ガイドライン改定の一部を担当する。大学生・大学院生で構成されたチームがエリアを分担して、現地調査を行い、見直し案を作成する。



2. チーム編成について

大学生・大学院生によるチーム編成については、異なる研究室に所属する学生の混合による「研究室連合チーム」や、同じ研究室の学生同士で編成するチーム等が考えられる。



3. ワーキンググループの進め方（案）と確認事項

→ 本小委員会にて詳細を議論

段階	実施項目	時期 (予定)	実施内容	主体	確認事項・留意事項 ○数字は次項以降に詳細を記載
事前準備	事前調整	～5月中旬	募集のための説明資料作成	コンサル	① 参加大学・参加者についての確認 ・ 参加大学、人数、チーム編成の仕方、作業可能量、期間等
			参加大学・参加者の調整、チーム編成、各チームの連絡窓口（リーダー）の調整	コンサル	
	対象エリア設定	～5月中旬	WGの検討対象とするエリアの設定・分担	コンサル	② WG対象エリアについての確認 ・ ランク分けに基づいたWG検討対象エリアの決定 ・ エリア分担は参加者が決まり次第調整
	実施要領の作成	～5月中旬	作業の目的及びアウトプットを明確化した実施要領の作成	コンサル	
	全体説明会	5月中旬～6月	参加チームに対する合同説明会の開催	コンサル	合同説明会の実施方法確認（時間、WEB、チーム毎or全員一斉、等）
実施・報告	フィールドワークやGL検討作業の準備	～6月	ベースマップ・基礎情報等の整理・提供	コンサル	③ GL検討の流れについての確認 ・ 全体の流れと留意点 ④ 新しい視点等のキーワードについての確認 ・ 改定案検討時に注目すべき視点やキーワード ※学生の夏休みの時期等のスケジュールにより時期が左右することに留意
		7～8月	上記も活用した文献調査等	チーム	
	フィールドワーク	8月	各チームが主体となったフィールドワーク	チーム	
	GL検討案作成	8月	各チームが主体となったGL検討案の作成	チーム	
	中間説明会	8月中旬	各チームからの中間報告の機会を設ける	チーム	
とりまとめ	最終報告会	8月下旬	各チームからの成果発表会の実施、有識者（小委員会委員）からのフィードバック	チーム	⑤ GLの更新イメージ（作業分担） ・ 各エリアのページ ・ 地区のページ
	GL案作成	8～9月	各チームからの成果を基に最終的な編集作業の実施	コンサル	

※WG：ワーキンググループ、GL：ガイドライン

WG参加大学募集は**前回策定時の参加・関係大学や、審議会・小委員会のメンバーの大学、新宿区の大学等**を中心に声掛けしていく想定

- 東京大学 中島直人先生
- 工学院大学 篠沢健太先生
- 東京都市大学 坂井文先生
- 東京理科大学 伊藤香織先生

前回策定時の参加・関係研究室
審議会・小委員会のメンバーの研究室

- 芝浦工業大学 佐藤宏亮先生
- 横浜国立大学 野原卓先生
- 東京都立大学 岡村祐先生
- 東京都市大学 中島伸先生
- 和歌山大学 永瀬節治先生

前回策定時のWG参加者が
教員となっている研究室

- 早稲田大学 佐々木葉先生
- 工学院大学 遠藤新先生

新宿区に立地する景観系の研究室

② WG検討対象エリア（案）

景観計画策定後の変化によるエリアのランク分け（令和2年度第1回景観検討小委員会資料4「景観計画改定エリアのランク分け」）に基づき、下記分担で改定案の検討を行う。

【分担】

A（19エリア）

：チーム＋コンサル

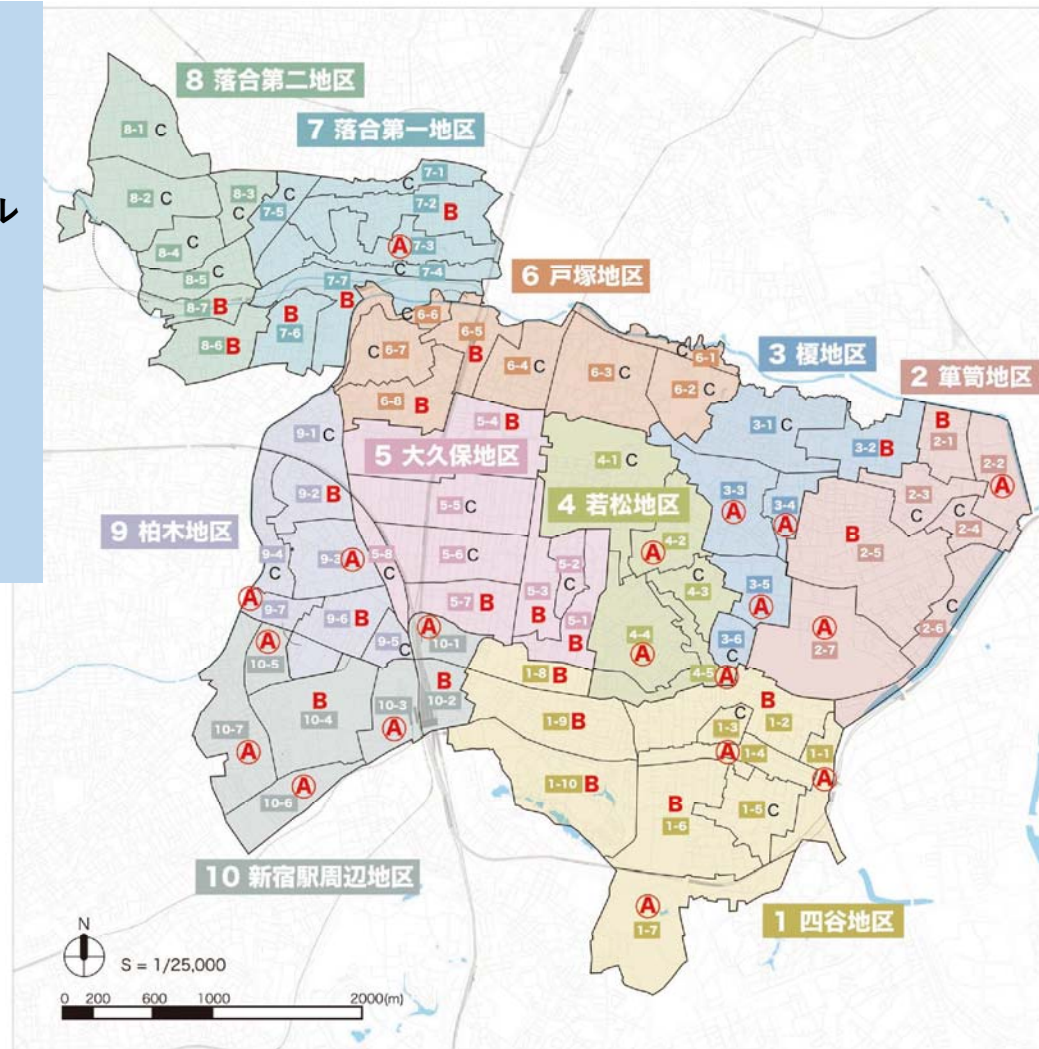
B（23エリア）

：チーム

C（30エリア）

：コンサル

※地区毎にAランク、
Bランクのエリアの
数にばらつきがある
ため、チーム編成に
あわせて分担を調整
する。



エリア別景観形成ガイドライン エリア区分図

1 四谷地区

- 1-1 四谷外環エリア
- 1-2 四谷北エリア
- 1-3 荒木町エリア
- 1-4 四谷新通りエリア
- 1-5 若葉・須賀町エリア
- 1-6 四谷南・西園町エリア
- 1-7 神宮外苑・南元町エリア
- 1-8 花園神社周辺エリア
- 1-9 内藤新居エリア
- 1-10 新宿御苑・内藤町エリア

2 筆筈地区

- 2-1 五軒町エリア
- 2-2 豊田町・大曲エリア
- 2-3 神楽坂(神社・寺)エリア
- 2-4 神楽坂(商店・横丁)エリア
- 2-5 中込台地エリア
- 2-6 外環斜面地エリア
- 2-7 市谷本村台地エリア

3 榎地区

- 3-1 早大通り区画整理エリア
- 3-2 江戸川横通り周辺エリア
- 3-3 中込西斜面地エリア
- 3-4 井天町台地エリア
- 3-5 柳町外環東通りエリア
- 3-6 市谷神之町エリア

4 若松地区

- 4-1 戸山公園南側山腰エリア
- 4-2 夏目堀エリア
- 4-3 女子西大エリア
- 4-4 余丁町周辺エリア
- 4-5 堀籠エリア

5 大久保地区

- 5-1 西向天神社エリア
- 5-2 大塚エリア
- 5-3 東新橋・文化センターエリア
- 5-4 戸山公園大久保エリア
- 5-5 大久保通り北エリア
- 5-6 大久保通り南エリア
- 5-7 歌舞伎町二丁目エリア
- 5-8 小滝橋通り沿道エリア

6 戸塚地区

- 6-1 園影橋エリア
- 6-2 早稲田大学周辺エリア
- 6-3 西早稲田エリア
- 6-4 雑司エリア
- 6-5 高田馬場駅周辺エリア
- 6-6 田島橋エリア
- 6-7 高田馬場西エリア
- 6-8 西戸山公園エリア

7 落合第一地区

- 7-1 目白通り沿道エリア
- 7-2 下落合台地エリア
- 7-3 下落合斜面地エリア
- 7-4 新目白通り沿道エリア
- 7-5 目白文化村周辺エリア
- 7-6 上落合エリア
- 7-7 神田川・妙正寺川エリア

8 落合第二地区

- 8-1 西落合北エリア
- 8-2 西落合南エリア
- 8-3 目白文化村周辺エリア
- 8-4 目白大学周辺エリア
- 8-5 中井斜面地エリア
- 8-6 上落合エリア
- 8-7 妙正寺川エリア

9 柏木地区

- 9-1 北柏木区画整理エリア
- 9-2 内環寺周辺エリア
- 9-3 堀江山腰エリア
- 9-4 神田川エリア
- 9-5 新宿駅北側区画整理エリア
- 9-6 成子町エリア
- 9-7 柏木南側開発エリア

10 新宿駅周辺地区

- 10-1 歌舞伎町一丁目エリア
- 10-2 新宿駅東口エリア
- 10-3 新宿駅西口エリア
- 10-4 経高橋エリア
- 10-5 角筈北側開発エリア
- 10-6 甲州街道沿道エリア
- 10-7 成橋・十二社エリア

(参考) 改定エリアレベル区分図（令和2年度第1回景観検討小委員会資料5）

（参考）前回策定時のWGエリア分担状況

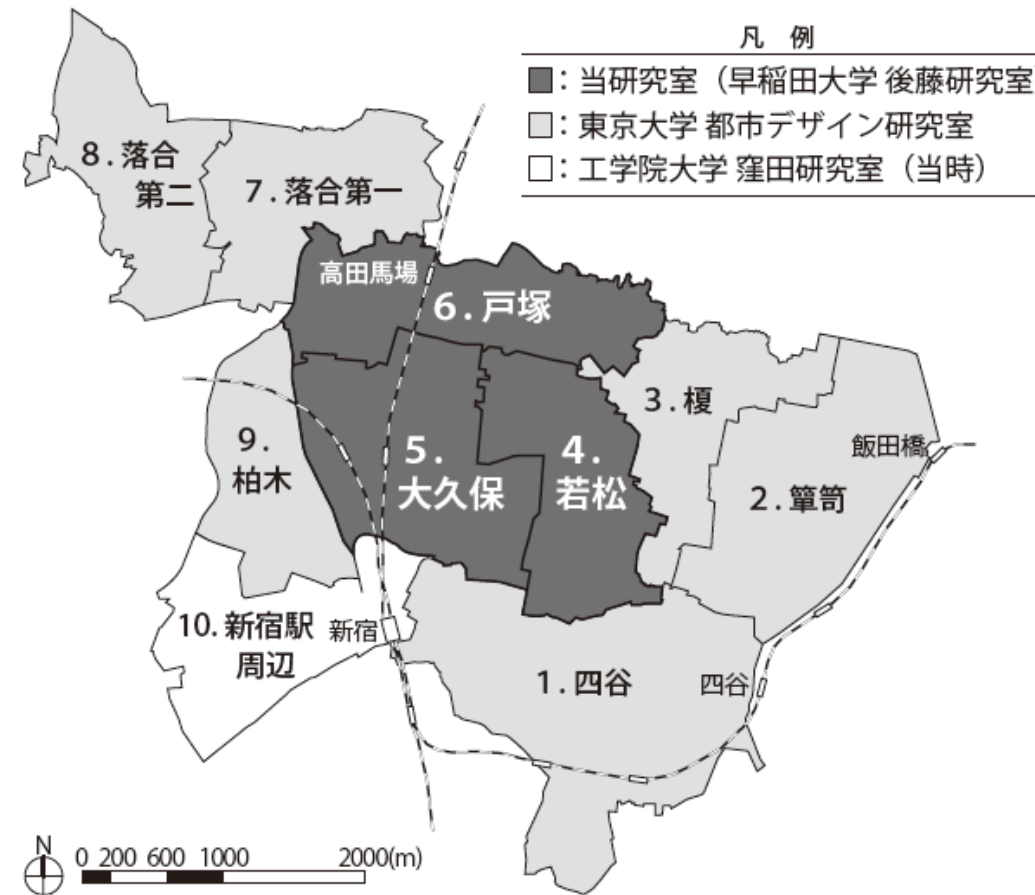


図 1. 本計画における新宿区の 10 地区の区分と各大学の担当

渡辺勇太他：新宿区を対象とした景観調査および景観まちづくり計画・ガイドブック策定の取り組み，
日本建築学会技術報告集 第15巻 第29巻，251-256，2009年2月

③ 各チームによるGL検討の流れ（案） 全体の流れと留意点

8

4～6月

事前準備（区・コンサル）

- ・ チーム編成、エリア割り振り
- ・ 実施要領によるアウトプットイメージの提示（具体的に何を行うかを明確化）
- ・ ベースマップや基礎情報等（再開発などのトピックや景観まちづくりの新しい視点のポイント等）の提供

6～7月

文献調査・視点整理・方向性の議論等
（チームが主体）

- ・ 現行GLと最新のベースマップの比較や基礎情報を基にして、エリアにおいて前回策定時から変化した場所・ことを洗い出し
- ・ 上記を踏まえ、フィールドワークで重点的に調査するポイントやGL改定の方向性等を議論・整理する



一方通行の進行ではなく、
適宜立ち戻り、議論を深めながら進められるようにする。

8月

フィールドワーク
（チームが主体、適宜コンサル、
エリアに詳しい区民等も参加）

- ・ 文献調査等を踏まえ、以下の3つの視点を念頭に現地調査を行う
 - ✓ 現行GLにおいて重要とされている箇所の現在の様子
 - ✓ 前回策定時から変化がある箇所の様子
 - ✓ 新たな視点を踏まえて見たときに重要な箇所



8～9月

GL改定案検討（チームが主体）

- ・ 文献調査やフィールドワーク等の成果を踏まえて、前回策定時からのまちの変化や、新たなまちづくりの視点等に注目しながら、新たな課題や改善方法を検討する
- ・ 上記を踏まえ、GLの改定案を提案してもらう

- ・ コンサル担当者はチームごとに直接やりとりをし、調査及び作業に関する全般的なフォローを随時行う。
- ・ 学生の創意工夫を大切に、意欲的に取り組んでもらえるように配慮する。コンサルがベース資料・情報を提供した上で、各大学にはエリアを点検し、新たな課題や改善策を中心に提案をしてもらうイメージ。それを基に、コンサルがガイドラインとしてとりまとめていく。
- ・ 学生にとって意義深いWGとなるように工夫する。

④ 新しい視点等のキーワード（案）

- 前回策定時から**新たに加わったまちづくりの視点**として、以下のようなキーワードを整理し、学生に対して**“課題出しや改善策提案に向けて注目すべき視点”**として提供することを検討する。
- また、これらのキーワードを踏まえつつ、**WGメンバーの中でも「これからの景観まちづくりやガイドラインがどうあるべきか」等について議論**をしてもらい、ガイドライン改定の方方向性に反映していく。

キーワード（案）

景観ガイドライン改定方針の方向性

- 超高層ビル群のスカイライン
- 建築物の高さ
- 夜間の景観形成
- 屋外広告物（デジタルサイネージ、プロジェクションマッピング等）
- 日本らしい景観、国際色豊かな景観
- 公共空間における環境や人の活動

近年のまちづくりの話題

- ウォーカブル
- 居心地が良く歩きたくなる空間
- エリアマネジメント
- 官民連携

社会情勢

- アフターコロナ、ウィズコロナ
- SDGs、持続可能性
- ダイバーシティ

【コンサル】ベースマップを更新したものを準備

【チーム】フィールドワークや文献調査等を踏まえて矢印・軸線・景観構成要素等を書きこみ、主題図を作成

【チーム】前回策定時からの街の変化や、新たなまちづくりの視点等に注目しながら新たな課題や改善策を中心に提案



【コンサル・チーム】フィールドワークで撮影した写真に差し替え



【チーム】概念図等の図版を適宜作成

【チーム】エリア調査結果を踏まえて時点更新



62

1 四谷地区



1 四谷地区

63

【コンサル】地区の見開きページ（地区の説明文、図面、地区内のエリアの概要等）はとりまとめ段階において全体調整